安全のために必ずお守りください。

⚠ 警告

- **ダウンヒルあるいはフリーライド走行は走行自体に危険が伴います。したがって予期しない転倒により重傷を負ったり死亡事故につながる場合があります。走行時には頭部保護具等の装着はもちろんのこと、走行前の車両点検も十分に行ってください。また走行は自己の責任のもとにご自身の経験と技量に合わせて行ってください。**
- 車輪が取付けにくい場合はクイックレリーズレバーをローター側にセットしてください。その場合、クイックレリーズレバーとローターとの干渉や、火傷にご注意ください。
- チェーンの洗浄には中性の洗浄液を使用してください。サビ落し等のアルカリ性あるいは酸性の洗浄液を使用するとチェーンにダメージを与え、チェーン切れを起こす場合があります。
- ナロータイプチェーンは必ずアンプルタイプ・コネクティングピンで連結してください。
  2種類のアンプルタイプ・コネクティングピンがありますので、ご使用前に必ず下記の表でご確認ください。アンプルタイプ・コネクティングピン以外のコネクティングピンやチェーンに適合していないアンプルタイプ・コネクティングピンおよび工具を使用されますと充分な連結力が得られずチェーン切れやチェーン飛びを起こす場合があります。

チェーン	アンプルタイプ コネクティングピン	工具
CN-7701 / CN-HG93 の様な9段対応 スーパーナローチェーン	6.5mm シルバー	TL-CN32 / TL-CN27
CN-HG50 / CN-HG40 の様な8、7、6段対応 ナローチェーン	7.1mm ブラック	TL-CN32 / TL-CN27

- スプロケット構成の変更などでチェーンの長さを再調整する必要がある場合は、アンプルタイプ・コネクティングピンおよびエンドピンで連結されていない箇所で切断してください。アンプルタイプ・コネクティングピンやエンドピンで連結された箇所で切るとチェーンを損傷します。

- チェーンの伸び具合や損傷がないかどうか点検してください。伸びたり損傷があった場合には交換してください。チェーンが切れて転倒することがあります。
- **製品を取付ける際は、必ず取扱説明書等に示している指示を守ってください。**その際、シマノ純正部品の使用をお勧めします。またボルトやナット等が緩んだり、破損しますと突然に転倒して重傷を負う場合があります。
- **製品を取付ける際は、必ず取扱説明書等に示している指示を守ってください。**調整が正しくない場合、チェーン外れ等の発生により、突然に転倒して重傷を負う場合があります。
- 取扱い説明書はよくお読みになった後、大切に保管してください。

使用上の注意

- フレームの形状によってはリアディレイラーがチェーンステーと干渉する場合があります。
- 変速操作がスムーズに出来なくなった場合には変速機を洗浄し、作動部に注油してください。
- リンク部のガタが大きくなって変速調整が出来なくなった場合には変速機を交換してください。
- 定期的に変速機を洗浄し作動部（メカニズム部及びプーリー部）に注油してください。
- 変速調整が出来ない場合には、車体の後ろエンドの平行度の確認、ケーブルの洗浄及びグリスアップとアウターケーブルが長すぎたり短かすぎたりしていないかを確認してください。
- プーリーのガタが大きくなって、走行時、非常に雑音がうるさくなった場合は、プーリーを交換してください。
- チェーン飛びが発生するようになった場合はギアとチェーンを交換してください。
- インナーケーブル内蔵式フレームでは、ワイヤー効率が悪くSISが働きにくいため、ご使用できません。
- ギアは必ず同じグループ刻印のセットで使用し、別グループ刻印のギア板を組み合わせて使用しないでください。

グループ刻印

- アウターケーブルはハンドルを一杯に操舵しても余裕がある長さのものをご使用ください。また、ハンドルを一杯に操舵した時に変速レバーがフレームに接触しないことを合わせて確認してください。
- 変速ケーブル（SIS-SP41）には専用グリスを使用しています。DURA-ACEグリスや他のグリスを使用すると変速機能が低下します。
- インナーケーブルとアウターケーブルの摺動部分がグリス潤滑された状態で使用してください。
- 円滑な操作のため、SIS-SPシールドケーブル、B.B.ガイドをご使用ください。
- 変速に関係するすべてのレバー操作は、必ずフロントチェーンホイールを回しながら行ってください。
- 材料及び製造において生じた不良合以外の、走行中のジャンプあるいは転倒等で発生した製品の損傷は保証しません。
- 通常の使用において自然に生じた摩耗および品質の劣化は保証いたしません。
- 取扱い方法及びメンテナンスについて疑問のある方は、購入された販売店にご相談ください。

ご使用方法

SI-5WN0A-002

RD-M810　リアディレイラー

この取扱い説明書は、ご購入された自転車に装着されているシマノ自転車部品の取扱い方法を説明しています。ご購入された自転車およびシマノ製自転車部品以外に関するご質問はご購入先または自転車製造元へのお問い合わせをお勧めいたします。

製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。

お客様相談窓口
☎ 0570-031961　Fax. 072-243-7847

株式会社シマノ
堺市堺区老松町3丁77番地 〒590-8577

機能を充分に発揮させるために、次のラインナップによる使用を推奨いたします。

シリーズ	SAINT
ラピッドファイヤー（シフティングレバー）	SL-M810
アウターケーブル	SIS-SP41
リアディレイラー	RD-M810
タイプ	SS / GS
フリーハブ	FH-M810 / FH-M815
スピード	9段
カセットスプロケット	CS-M770 / CS-HG80 / CS-6500
チェーン	CN-HG93
B.B.ガイド	SM-SP17 / SM-BT17

仕様

リアディレイラー

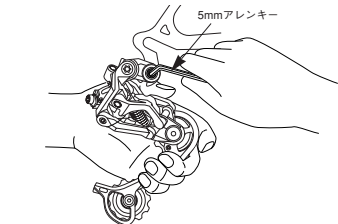
モデルナンバー	RD-M810	
タイプ	SS	GS
スピード	9	9
トータルキャパシティー	17T / 23T*	31T / 37T*
対応スプロケット構成	11-32T / 11-34T / 11-28T / 11-23T / 12-25T	
リア最小ギア	11T	11T
フロント歯数差	シングル	14T

＊はモードコンバーターを使用した場合

モードコンバーターについて

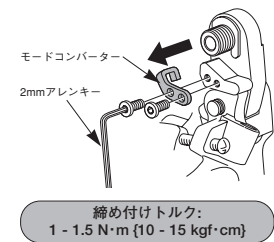
この変速機はオールマウンテンモード（11-32T / 11-34T）及び、ダウンヒルモード（11-23T / 12-25T / 11-28T）2種類のリアスプロケットに対応しています。リアスプロケットをオールマウンテンモードにする場合は、モードコンバーターを使用してください。

自転車のタイプ	オールマウンテン	ダウンヒル
モードコンバーター	X	–
対応スプロケット構成	11-32T / 11-34T	11-23T / 12-25T / 11-28T

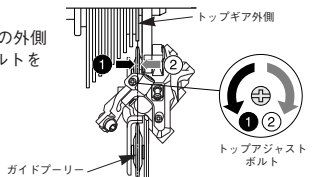
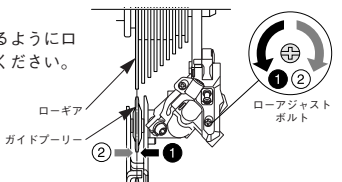
リアディレイラーの取付け

手の力でフレームエンドに密着できることを確認してください。

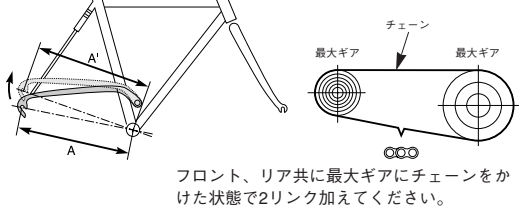
注意：チェーンを張った後に、フレームエンドに密着していることを確認してください。

ブラケット軸締め付けトルク:
8 - 10 N·m {80 - 100 kgf·cm}

モードコンバーターの取り外し方

締め付けトルク:
1 - 1.5 N·m {10 - 15 kgf·cm}

SISの調整

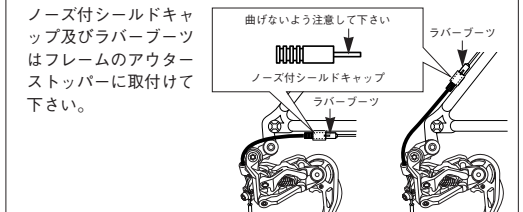
1. トップ側の調整
後方から見て、ガイドプーリーがトップギアの外側の線の上にくるようにトップアジャストボルトを回して調整してください。

2. ロー側の調整
ガイドプーリーがローギアの真下にくるようにローアジャストボルトを回して調整してください。

3. リアサスペンション付き自転車におけるチェーンの長さ
リアサスペンションが作動することにより、A寸法が変化します。このためチェーン長さが不足していると、駆動関係に異常な力が加わることがあります。チェーン長さは、リアサスペンションが作動してA寸法が最長に伸びたところで、チェーンを前後最大ギアに掛け、2リンク加えた長さに設定してください。リアサスペンションの作動量が大きい場合、フロント最小ギアとリアのトップ側ギアでチェーンの緩みが取れないことがあります。

フロント、リア共に最大ギアにチェーンをかけた状態で2リンク加えてください。

4. アウターケーブルの長さ
(1) Bテンションアジャストボルトを図のような位置まで緩めてください。
(2) アウターケーブルが適切なたわみ代を持っていることを確認後、リアディレイラーのアウター受けの下端にあわせて切断してください。

注意：
リアサスペンションが作動して、アウターストッパーとリアディレイラーのアウター受けの間隔が変化する場合がありますので、この寸法が最長になったところでアウターケーブルの長さを設定してください。
モードコンバーターを設定変更した際、特にオールマウンテンからダウンヒルへの変更はアウターケーブルが短くなります。その場合、変速性に影響をきたしますのでアウターケーブルの長さを再度設定してください。

アウターケーブルの切断
切断後の端面は、外側を真円に戻し、穴の内側を整えてください。

アウターケーブルキャップは、切断後も同一物を使用してください。

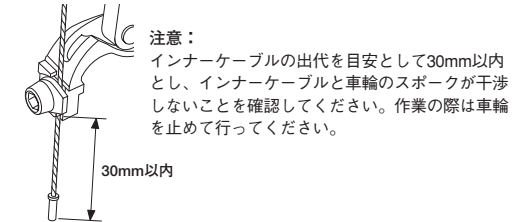
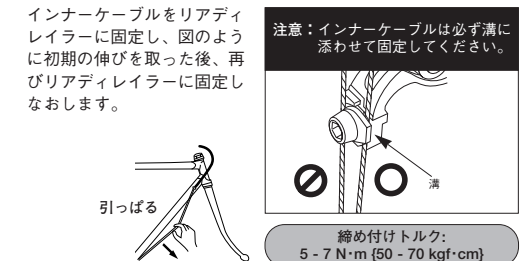
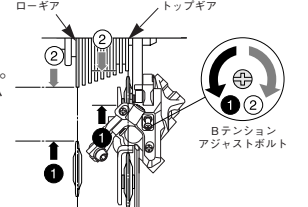
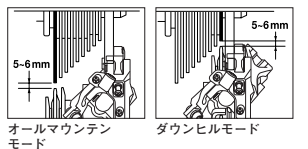
ノーズ付シールドキャップ及びラバーブーツはフレームのアウターストッパーに取付けて下さい。

＊リアサスペンション自転車等で、リアディレイラーの動きが激しい場合には、付属のアルミキャップとの交換をお勧めします。

アウターケーブルはアルミキャップがついた方を変速機側に使用してください。

インナーケーブルをリアディレイラーに固定し、図のように初期の伸びを取った後、再びリアディレイラーに固定しなおします。

注意：インナーケーブルは必ず溝に添わせて固定してください。

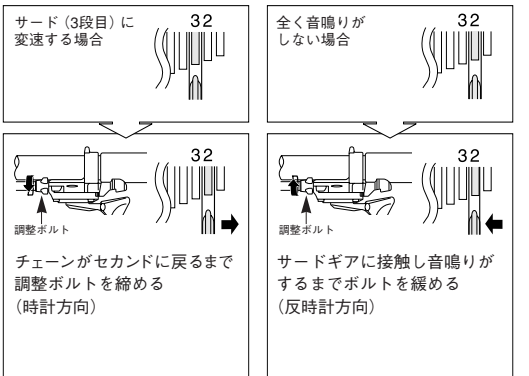
締め付けトルク:
5 - 7 N·m {50 - 70 kgf·cm}

注意：
インナーケーブルの出代を目安として30mm以内とし、インナーケーブルと車輪のスポークが干渉しないことを確認してください。作業の際は車輪を止めて行ってください。

5. Bテンションアジャストボルトの調整
チェーンをチェーンホイールの最小ギア、フリーホイールの最大ギアにセットし、クランクを回し変速します。チェーンづまりしない位置までガイドプーリーがギアと干渉しないようにBテンションアジャストボルトを回して調整します。次にフリーホイールを最小ギアにセットして同様に、チェーンづまりがしないことを確認してください。

〈ローギアとガイドプーリーの間隔の確認〉
リアディレイラーをローギアにセットし、車輪を止めてからガイドプーリーの先端とローギアの先端の間隔が5mm〜6mmの範囲にあることを確認してください。クランクを回して変速し、ごろつき感がないことを確認します。またカセットスプロケットの歯数を変更したときにも再度この設定を行ってください。

6. SISの調整
シフティングレバーを1回操作して、リアギアを2段目に変速させます。その後、レバーの遊び分だけ操作した状態で、クランクを回転させます。

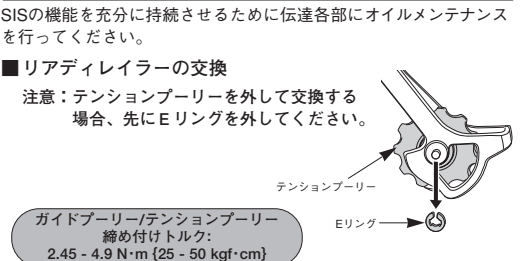
サード（3段目）に変速する場合 — 32

全く音鳴りがしない場合 — 32

チェーンがセカンドに戻るまで調整ボルトを締める
（時計方向）

サードギアに接触し音鳴りがするまでボルトを緩める
（反時計方向）

ベストセッティング
シフティングレバーをレバーの遊び分だけ操作した状態でチェーンがサードギアに接触し、音鳴りする状態がベストセッティングです。

- レバーをもとの位置に戻し（レバーはセカンドの位置でレバーから指を離した状態）、クランクを回転させてください。サードギアと接触し、音鳴りが残っている場合は調整ボルトを少し締めて（時計方向）、音鳴りのしないぎりぎりのポイントで止めるようにしてください。

レバーを操作して変速し各段で音鳴りがないことを確認してください。

SISの機能を充分に持続させるために伝達各部にオイルメンテナンスを行ってください。

■ リアディレイラーの交換
注意：テンションプーリーを外して交換する場合、先にEリングを外してください。

ガイドプーリー/テンションプーリー締め付けトルク:
2.45 - 4.9 N·m {25 - 50 kgf·cm}